



パッションフルーツ品評会開催される

6月8日,JA東京島しょ小笠原父島支店において,パッションフルーツ品評会が開催されました。この品評会は,JA父島母島支店の主催により,パッションフルーツの品質向上を図ることを目的に実施されました。

出品規格は,1.5kg箱の出荷荷姿の1部門のみとし,父島より2点,母島より5点の計7点の出品がありました。

審査員は,支庁産業課長をはじめ,支庁母島出張所長,農業センター所長,センター研究員,営農研所長,村役場産業観光課職員の6名で,合議制により審査が行われました。

審査は,果実の形の揃い,色まわり,病害虫被害やキズの有無等について,外観による評価で行いました。本年度の出品物は,1果重100gを越える大玉の物も多く,全体的にそろいもよく,優れた出品物ばかりで審査に大変苦労いたしました。

中でも,金賞となった出品物は,色,形ともそろっており,欠点の無い素晴らしいパッションフルーツでした。銀賞,銅賞となった出品物についても,金賞に準じた優良なもの

でしたが,箱全体を見ると果実の着色ムラや,一部の果実にキズがあったために上位入賞となりませんでした。

審査員特別賞となった出品物については,果実はやや小振りであったものの,全体の色,形が揃っており,良好なものでした。

また,本年より,外観審査の終了後,出品物から任意に3個の果実を取り出し,糖度(Brix%),酸度(g/100mlクエン酸換算値)の測定も行いました。糖度は,17.1~18.5であり,この時期としては平均的な数値でした。酸度は,1.21~2.40,糖酸度比は,7.5~15.2と数値に幅がありました。糖度,酸度,糖酸度比の数値を審査に反映させるかは,今後の検討課題とさせていただきたいと思います。

来年度の作付けに向け,育苗等の準備を始められた方もいると思いますが,本年以上の作柄になることを祈念いたしまして,審査講評とさせていただきます。 <金子>

表 審査結果

擬 賞	氏名(生産地)
金 賞(村長賞)	福田亮三(母島)
銀 賞(支庁長賞)	小松妙子(母島)
銅 賞(JA組合長賞)	上川耕治(母島)
審査員特別賞(JA父島支店長賞)	友野農園(父島)



写真 福田さんの金賞受賞品

パッションフルーツの挿し木はお済みですか？

パッションフルーツの挿木の時期となりました。毎年、挿木をして健全な苗木を作り、株を更新しましょう。

【挿し床の準備】

透水性のよい土壌がよいでしょう。保水性が強いものや肥料分が多いと発根率が低下します。用土を準備したら、挿し木をする前に十分な水を含ませてください。

表 用土と挿し木の時期別の発根率(%)

用 土	4月	5月	6月
小笠原の赤色土	100	100	100
パーキュライト	100	100	100
泥炭系市販培用土	75	4	46

2009年のデータ

【穂木の選定】

穂木は、太くてしっかりとしたつるを選びましょう。挿し木にはつるの先端よりもつる元がよいでしょう。穂木を切ったら、すぐに切り口を水に浸けてください。

【挿し穂のつくり方】

下図のように刃物でつると葉を切断してください。切り口は乾かさないうちに水に浸

けて下さい。用土に挿す際は、まっすぐ挿してください。ねじると切断面の細胞がつぶれて発根しない可能性があります。

【挿し木の管理】

ジョウロで水をやさしくあげてください。直射日光は避けて、風通しの良い場所においでください。発根しない場合は、1週間以内に葉が落ちます。

芽が伸びてきたら、3～4号のポリポットに鉢上げして、肥料（IB化成の場合3粒程度）をあげてください。鉢用土は赤色土と堆肥を1：1で混合したものがよいです。鉢上げ後、1～2ヵ月で新梢が30～50cmになります。その頃に6～8号の鉢にもう一度、鉢上げしてください。その際、新梢はひもや棒を用いて上に向かって誘引し、脇芽は除去してください。

小笠原での定植時期は、鉄骨ハウスの電照栽培で7～10月、露地栽培で9～11月です。年を越してからの定植は、夏実の収穫量が著しく低下する傾向があります。定植までにしっかりとした苗木を作り、来年に備えましょう。

< 宗 >

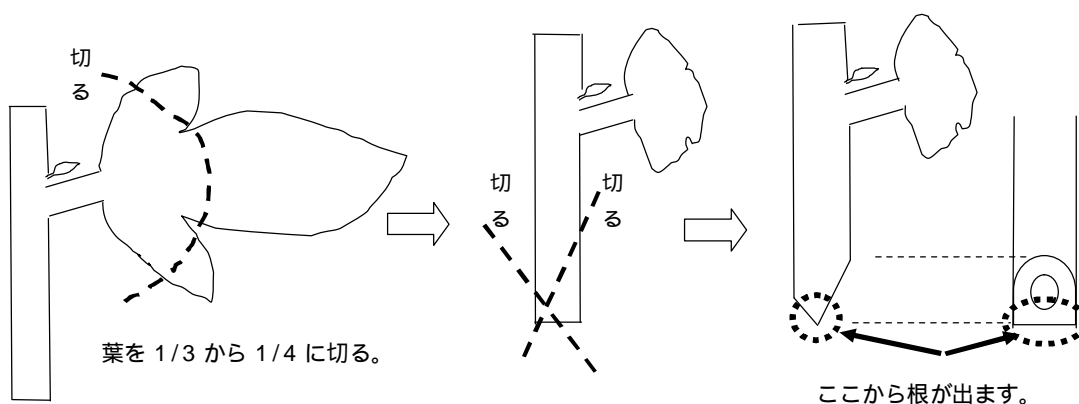


図 挿し穂のつくり方

秋期の マンゴー の管理

マンゴーの収穫が終わったら来年の収穫に向けての作業が始まります。今回は秋期の管理作業についてお話しします。

【収穫後の管理】

秋期の剪定の目的は来年の結果枝の確保とコンパクトに仕立てることです。

マンゴーは頂芽優勢(枝梢の先端が発芽伸長しやすいこと)が強く、枝梢は先へ先へと伸びていき、高木になりやすい樹です。新梢は伸長と停滞を繰り返し、年に2～3回伸長します。

このため、収穫が終わったら遅くとも9月上旬までに、下図のように結果枝を1伸長節で切戻し、樹形を抑えます。この時、切り口にトップジン M ペーストを塗布し切り口を保護すると共に、切除した枝梢はすぐに圃場の外に持ち出し、病害虫の発生源としないことが大切です。

樹勢を回復させるためにお礼肥と十分な灌水をします。成木1樹当たり堆肥8kg、有機質肥料(8-8-8)1.8kg、炭酸カルシウム300gをばら撒きで施用します。

【10月以降の管理】

切戻された結果枝は、その先端から新梢が発芽伸長します。充実すると2度目の発芽伸長をし、この先端に花芽を付けさせます。

しかし、夜温と土壌水分が高い場合、3度目の発芽伸長が起き、花芽が付かないことがあります。このため、2度目の伸長が収まった後、新梢を水平に誘引し、灌水を控えて、発芽伸長を抑える必要があります。

なお、未結果枝は放っておくと過繁茂になるため、春に1伸長節ほど切戻し翌年結果させる予備枝(結果母枝)にします。

<馬場>

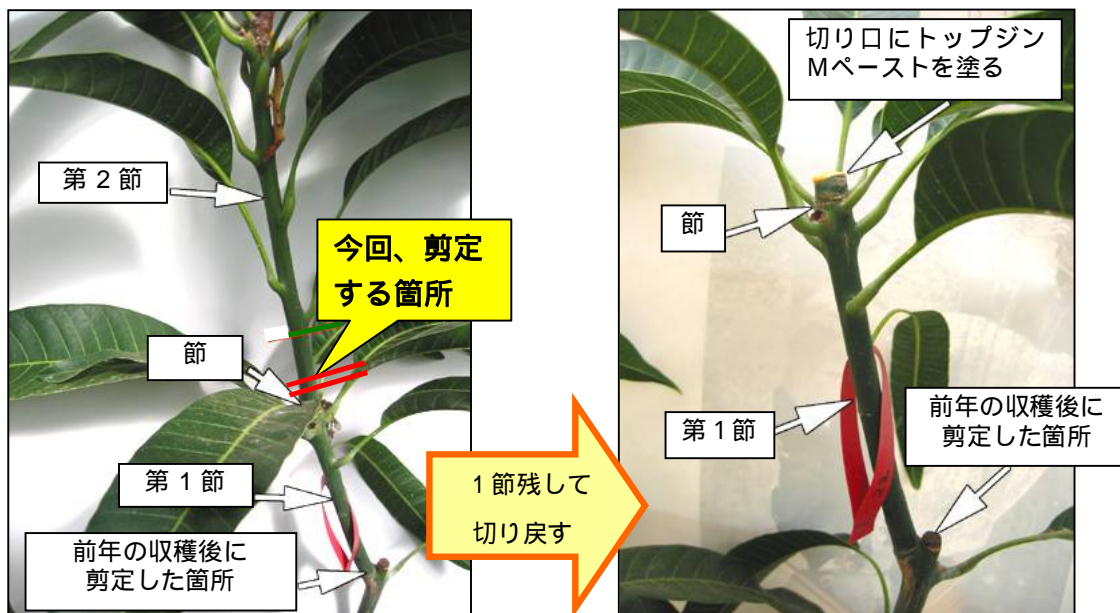


図 結果枝の切戻し部位

市場動向 (パッションフルーツ)

今回は、パッションフルーツの生産動向、また、各地の新たな取組みなどを紹介します。

(1) 拡大からやや安定化する国内生産

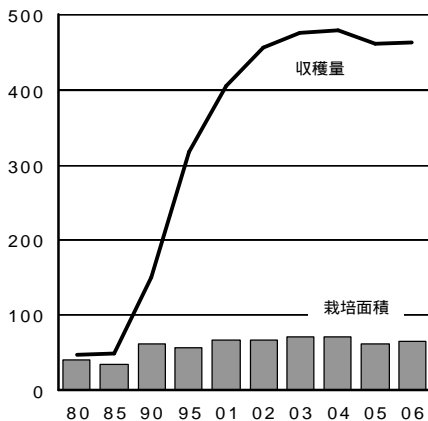
パッションフルーツの直近の栽培面積及び収穫量・出荷量については、2006年(平成18年)までのデータが農水省から公表されております。2009年の国内栽培面積は64ha、収穫量が462トン、このうち出荷量が382トン、うち60トンが加工向けとなっています。

主産県は、鹿児島県、沖縄県、東京都で、3都県で全国の90%を栽培しています。

国内の主産地は、鹿児島県の屋久町(屋久島)、瀬戸内町(奄美大島)、沖縄県の糸満市、恩納村、東京都では小笠原村、八丈町などとなっています。

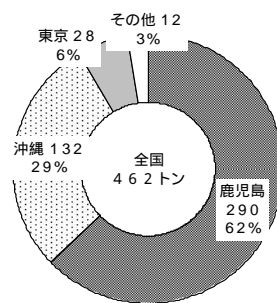
栽培面積は、2003、04年に70haを超えましたが、近年は65ha前後で推移しています。収穫量は、1985年以降急速に拡大しましたが、2004年以降は460~480トンで安定化しているようです。

全国のパッションフルーツの栽培面積と収穫量の推移
ha, トン (1980~2006年)



農林水産省調べ

2006年(平成18年)産
全国のパッションフルーツ収穫量



農林水産省調べ

(2) 各地の新たな取組み

新聞記事などから、各地の新たな取組みを紹介します。

休耕田を利用したパッションフルーツ栽培

那須烏山市の企業組合「那須元気くらぶ」では、休耕田を借り受け、加温ハウス2棟(1000㎡)でパッションフルーツ、ジャボチカバ、ミラクルフルーツなどを栽培し、都内のレストランなどに販売をしている。

2004年からは果樹のオーナー制を導入、05年には県内のパッションフルーツ農家2戸、660㎡と契約栽培を開始している。

(農林水産省関東農政局)

山間地でパッションフルーツの新製品

岐阜県関市の山間地でパッションフルーツの露地栽培を行う生産者らが、パッションフルーツの機能成分に着目した新商品の販売に乗り出している。パッションフルーツティーの試作に続き、原材料を加熱せずにソフトキャンディー状の商品を業者に委託して開発している。(09.5.20 日本農業新聞)

冷凍パッションフルーツの販売

沖縄県の果実商が、旬の時期でなくても食べられる冷凍パッションフルーツを販売している。冷凍保存で約半年、半解凍でシャーベット感覚や、アイスクリームやヨーグルトといっしょに食べられる。約1.5kg、税込み5,500円で販売している。 <谷藤>